



Amir Tsarfati

2020年12月9日イスラエルアンベールド Vol.3 : クムラン

ーカルメル山、クムラン、ベト・シェアン、エン・ゲディー

クムランからシャローム。死海文書が発見された場所、現代考古学史上、最も驚くべき発見の1つです。間違いなく最古のヘブライ語文書の1つで、紀元前約2～1世紀のものと特定できます。そして、間違いなく、最も古い聖書の写本の1つです。それがヘブライ語で書かれているという事実はさておき、今話しているのは、ここで見つかったのが聖書的な文書であるという事実です。では、これがどういものなのか歴史をさかのぼって理解してみましょう。



私たちの手にある聖書、神の御言葉は、1000年前までは人々が手に持つことのできないものでした。家庭に置いておけるものでもありませんでした。イエスの時代の人にとって、聖書全体の写しを所有する事は不可能でした。聖書全体の写しが1つでもあり得た唯一の場所は…。忘れないでください。当時は旧約聖書だけです。会堂、あるいは神殿そのもので、人々には手の届かないものでした。それぞれの書が巻物になっていて、それぞれの巻物は、内容が消えずに保存されるように、特定の材質に書かれていました。それがパピルスだったり、動物の皮だったり、その他のものであったりせよ、当時は、聖書を所有している人は誰もいませんでした。事実、私たちに分かっているのは、一番初め、モーセによる最初の五書は、モーセ自身の助手によって記されたということです。ですから、私たちが今話しているのは、3500年以上も前の文書のことです。それは目を見張るものです。そして、その次に、イスラエルの民が聖書を耳で聞く時代になりました。忘れないでください。これは、神の御言葉です。当時の人々は、それが何を意味するかを理解していません。つまり、立っていても、座っていても、直接神から出て、直接私たちに向けられた言葉を、滅多に聞くことが出来なかったのです。もう1つ覚えておくべき事は、当時の人々にとっては、神の言葉を聞くのは預言者たち、神の言葉を聞くのは他の人たちで、ただ座って、神ご自身が預言者や父祖たちを通して語られるのを聞いていた人達にとって、これは、かなり信じがたいことです。だからこそ、ヘブル人への手紙第1章を見ると、神の御言葉に関して非常に重要な事が書かれていて、これを軽^{かる}んじるべきではありません。こう言っています。

「神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。」 (ヘブル1:1)

ですから、神は預言者たちを通して父祖たちに語られ、そして当時、この文書が書かれた頃には、神は御子イエス・キリストによって、すべての人々に語られました。つまり、まず初めに、主が特定の人々を通して語られ、彼らの仕事は、神が彼らに語られた事を人々に伝えることでした。その後、聖書によると、「この終わりの時には…」それは2000年前に始まりましたが、神はイエスによって全ての人々に語られます。地球上のどこでも、イエスの「大決起集会」に来た人、イエスの周りに集まった人々^{あた}の中で、こんな風に「あなたは神の御言葉を聞くにふさわしくない。あなたは、わたしが語る事を聞くに値しない」と言ってイエスに退けられた人は誰ひとりいません。神は、キリストによって全ての人に語られました。そして神は、私たちが、今が終わりの時代であることを必ず理解するようにされました。ですから、今日、終わりの時代について語る時、今が終わりの時刻であることを私たちは覚えておかねばなりません。

終わりの時代は、正式には2000年前に始まりました。イエスご自身が来られて、モーセや詩篇、預言者たちによって書かれた全ての事を解説された時です。昨今では、非常に多くの牧師たちが、旧約聖書は新約聖書ほど重要ではないとか、それは古いもので、新しいものがあるのだから、旧約聖書に耳を傾けたり、それを学んだりするのはそれほど重要ではないとまで言ったりします。ですから、私たちは次の事を理解せねばなりません。聖書、それも主に旧約聖書は奇跡的に保存され、その為、私たちはイエスご自身によって成就されたものを見ることができるのです。イエスご自身がエマオへの路上で弟子たちに語られた時に、二人の弟子にご説明されたのは…全て？旧約聖書からです。私がよく尋ねられるのは、「どうすれば実践的、かつ効果的にユダヤ人に伝道できるのか？」そこで私は いつもこう答えます。「ヨハネ3章16節はダメです。あるいは新約聖書の聖句はどれもダメ」なぜなら、彼らにすれば、それは神の御言葉ではないからです。

では、2000年前にここに住んでいた人たちにとっては、何が神の御言葉だったのでしょうか？新約聖書が与えられる前。それは言うまでもなく…聖書、つまり旧約聖書、トーラー、詩篇、預言者です。神は、ご自分のやり方で、ご自分の御言葉を保存されました。神秘的な方法、見事な方法、輝かしい方法、そして時にはユーモアたっぷりに。というのも、もしも1947年にユダヤ教のラビが洞窟の中で古代文書を見つけ、何らかの形で旧約聖書の信頼性を証明したんだ、と私が言ったら、それが真実かどうか、誰もが疑うでしょう。「ユダヤ人は、自分達の書が有効で、真実で、正当であると証明しなければならないのだから、彼らが発見するのも当然でしょう」もしもクリスチャンがそれを発見していたら、誰もがこう言ったでしょう。「そりゃあ、彼は見つけるでしょう。だって、彼はイエスが確かに、律法と詩篇と預言者を成就したと証明しなければならないんだから。彼は証明しないといけなかったから見つけたんだ」そこで神は、その無限の知恵と素晴らしいユーモアのセンスで、イスラム教徒を送られました。しかも、高度な教育を受けた人ではありません。18歳のムハンマド。すごいと思います。イスラム教徒には、たくさん名前があるのに、でも、神は よりにもよって、ムハンマドを選ばれたんです。



何らかの形で、旧約聖書の信頼性を証明したんだ、と私が言ったら



その代わりに、彼は陶器が割れる音を聞き、洞窟の中に入ってみると、



開けてみると、中には、布で包まれた巻物がありました。

彼は、いなくなった山羊を捜して、ここからそんなに遠くない所、北に約1マイルの「第一の洞窟」と呼ばれる所にやって来て、ムハンマド・エッ・ディーブが石を投げ入れた時、そこから出てきたのは行方不明の山羊ではなくて、その代わりに、彼は陶器が割れる音を聞きました。それで洞窟の中に入ってみると、美しい蓋の付いた縦長の壺を幾つか発見。開けてみると、中には布で包まれた巻物がありました。そのムハンマドは、それらの巻物をベツレヘムの人のところを持ち込みました。しかしその人は、ムハンマドが、それらを会堂から盗んだのかもしれないと心配し、返却しました。そこでムハンマドは、再びベツレヘムに行き、古物商を営むイスカダルに売りました。彼はカンドーと呼ばれています。そしてこの人は、それを祭司の友達たちに見せました。手短かに話すと、それは1947年の11月のことです。イスラエル国家成立に先立って、イスラエルのユダヤ考古学

組織がベドウィンの羊飼いで、この地域で発見されたヘブライ語の文書が存在する事、それらが紀元前(キリスト以前) 1~2世紀に容易に遡り得る古代文書であると知りました。当然、大興奮です。皆さんが理解しなければならないのは、その時までには、ヘブライ語が少し記された小さな銀片しか無かったのです。それはアロンの祝福の一部で、エルサレムで発見されました。紀元前600年頃のものでしたが、ほんの数語だけです。しかも、古代ヘブライ語です。皆さんや私が理解できるものではありません。ですから、2200年前のヘブライ語の聖書文書があるのは、かなり驚くべきことです。それで、その考古学者エレアザル・スケーニクは、どうにかバスに乗り込んで境界線を超え…その当時は、イスラエルの地にはイギリス委任統治領パレスチナがあり、ベツレヘムとアラブ人の居住していた地域とユダヤ人地域の間には障壁があったのです。しかし彼は境界線を超え、バスに乗り、ベツレヘムまで行きました。1947年11月28日です。そして1947年11月29日、彼は最初の数巻を購入しました。なぜ、それがそんなに重要なのか？なぜなら、その日に、国連が投票によって「2つの民族のための2つの国家」に賛成したからです。アラブ人が決し

て「賛成」しなかった事は言うまでもありません。しかし、世界がユダヤ人国家について投票している日に、ユダヤ人が、この地に対する歴史的な権利を買ったという事実だけでも…それは500年前のものでもなく、1000年前のものでもありません。1500年前でもありません。2200年以上前のものです。イスラム教が誕生するよりもずっと前、過去2000年間で、ここに住んだ人たちのだれよりもずっと前に、そして現在、ユダヤ人は、それらの写本の幾つかを所有しています。全部ではありません。事実、最も重要なものは、まだ私たちの手に入っていません。

1954年になって、エルアザル・スケーニクの息子、イガエル・ヤディン、彼はマサダを発掘した考古学者でもあります。彼はウォール・ストリート・ジャーナル紙に、「写本 売ります」とあるのを見ました。ちょっとした広告…「写本 売ります。」どうやら、シリア正教会の司祭の一人が、それらの写本のうちの4つを所有していたようで、そのうちの1つはイザヤ書全書でした。彼には、それが高額でユダヤ人に売れる事が分かっていました。そして1956年に、イスラエル首相モシェ・シャレットは、外国から入って来る寄付で、イスラエル国家がこの写本を購入することを決定しました。私たちは一銭も惜しまず、50万ドル以上支払って、それらを買いました。実際には100万ドル以上です。そして、皆さんに理解してもらいたいのですが、写本の大半は、まだ私たちの手にありませんでした。それらは当時、すでに東エルサレムを支配していたヨルダン人の手にあって、彼らはそれらを、今日”ロックフェラー博物館”と呼ばれる所に保存していました。当時は、それは”パレスチナ考古学博物館”でした。

そして、1967年の六日間戦争の間に、イスラエルは東エルサレムを奪取し、ロックフェラー博物館を奪い、それらの写本を見つけ、所有しました。私たちが持っていない写本は、実際、ここで見つかった写本で、銅に記されていて、古代の宝について描写されていました。あちらにある全ての宝のことが描写されていたのです。しかし、それがどこにあるのかは記されていませんでした。これで、なぜ、何百人もの人たちが宝を探してこの辺りを歩いて回るのか分かります。しかし、ここで私は皆さんを2000年前、イエスの時代にまで連れ戻したいと思います。ヨセフス・フラウィウスも、聖書も、他の資料も、イエスの時代には、イスラエルの地に3つの主要なユダヤ教の宗派が存在したと言っています。パリサイ派の運動が一般的で、大半の人々が属していました。それは、律法の最も厳格な解釈を信じ、彼らはまた、シナイ山でモーセに与えられた口承律法こうしやうりっぽうも信じていました。彼らは、異なる時代には律法を異なって解釈できるとは思いませんでした。彼らが信じていたのは、たった一つ、厳格、宗教的で、とても、とても強硬路線でした。それから、サドカイ派の人たちがいました。サドカイ派は祭司の家系の子孫たちで、これらの人たちは指導者たちでした。宗教指導者たちです。もちろん、古代帝国がこの地を支配する度に、彼らはいつも宗教指導者たちを味方につけたがりました。そうやって、大衆を支配するのです。1つ言えるのは、祭司たちは、いつも何か厳格なものよりも、妥協の方を好みました。自分たちの地位を守り、平和を守り、訪れる危機を次々に乗り切るために。祭司たちは、死後のいのちはないと信じていました。いま私たちが行なう事が全てです。だから、今、平安に生きた方がいい。後には、私たちに平安はないから。我々は今の状況や支配層に適応した方がよい。他に選択肢はないから。そこで彼らは、今日の多くの社会主義者たちと同様に、基本的にこのように言います。世界は変化している。だから我々自身も変化し、それに適応せねばならない。彼らはサドカイ人と呼ばれますが、中にはこう言う人達もいます。「ほら。彼らは死者からの復活を信じなかった。だから彼らはSAD, YOU SEE?(悲しいだろ?)」(注：サドカイ人=Sadduceeをもじった冗談)

しかし、ヨセフス・フラウィウスはもう1つのグループについて触れています。エッセネ派と呼ばれる人たちです。エッセネ派の集団。ちなみに、エッセネ派の集団は自分たちをエッセネ派とは称しょうしませんでした。他の人たちが、彼らのことをエッセネ派と呼んだのです。彼らは恐らく祭司の家系の子孫たちで、存在していた腐敗のすべてに抵抗した人たちでした。彼らは本当の信念と、厳格な解釈と、最も宗教的な習慣に戻ろうとしました。しかし、彼らはまた、何か異なるものも求めていました。彼らが求めていたのは、神殿も何もかも異なるユートピア的な生活でした。彼らは、ある時点でエルサレムから退き、死海のすぐ傍にある、この辺りに移ってきました。平和に安全に生活し、自分たちは腐敗や他の祭司たち、神殿から、出来るだけ遠ざかろうと考え、彼らは、彼ら自身の儀式や暦こよみを持っていて、何もかもが異なっていました。この人たちは白い衣を



着て、毎日、2度、自ら洗礼を受けていました。この人たちは、週末はずっとトイレを使うことすら許されていませんでした。汚れるから。この人たちが信じていたのは、人は光から生まれるか、闇の子かのどちらかで、それはどうすることも出来ない。最初のカルヴァン主義者かも知れません。「予定説」彼らは、自分達を「聖い共同体」と呼び、そこに人を迎え入れた方法は、文字通り、彼らの骨組みを計測したり、彼らの星座や、誕生日や、星の構図を見たりして、それによって、彼らが、あなたが光の子であるか、闇の子であるかを決めていたのです。それは、人にはどうしようも出来ない事でした。自分の骨組みや、誕生した日はどうにもならないですよ？それが、彼らの発想だったのです。そしてこの人たちは、常軌を逸して、彼らの規則の1つに違反したかもしれないメンバーを追放しました。彼らは厳粛な沈黙のうちに、祭司の作った食べ物だけを食って、その皿や杯も、ここにあった竈で製作されたもので、何か言いたい時には口を開く許可を求め、何か間違った事を言ってしまったら、彼らに不利な覚書が書き留められ、それらのものがどんどん溜まると、二週間、二か月間、あるいは、もしかしたら半年間、追放されていました。彼らはここには住んでおらず、実際には、周辺の洞窟や小屋やテントで暮らしていました。ここは中心部で、彼らはここで勉強したり、巻物を書いたりし、ここで共同体としての食事をしていました。そして、ここは高い確率で、彼らがナツメヤシのシロップを作っていた場所でもありました。舗装された一帯で、10万個のナツメヤシの種が見つかっています。そこは一種のナツメヤシ・シロップの工場であったに違いないと信じられています。しかし、この人たちは200年足らずしか存続しませんでした。言い換えれば、ユダヤ教におけるその宗派の存在期間は、本当にごくごく短いものでした。それでいて、私たちは自問せねばなりません。何故、よりもよってこの人たちが神に選ばれて、巻物を書き、巻物を書き写し、それらの洞窟に保存したのか？私はいつも、こう言っています。神が口バを使ってバラムに語られたのなら、神には変わり者の集団を使って御言葉を保存することがお出来になる。神は驚くべき事を行なうために、完璧な人達を捜してはおられません。神は、イスラエルの大半が決して賛成することのなかったあの一団の人達を用いられました。彼らは独自の暦を持っていて、独自の祭りや、独自の日や週や月を祝っていましたから。しかし、神は彼らを用いられました。そして、彼らがとても強く信じていた事の1つは、巻物を書き写すことによって、御言葉を保存せねばならないことでした。巻物を書き写すということは、聖書の文書に関して、自分たちが書いた物は原物ではないのを、彼らは知っていたことを意味します。写本が存在するように書き写すのだと。彼らがそれを何処から書き写したかと言うと、最も可能性が高いのは、神殿の保管所からでした。それは神殿が破壊される直前に、ちょうどこの辺りに隠されていたと考えられています。なぜなら、私たちがここで見つけた写本の数と、エッセネ派の中にいたと分かっている書士たちの数が一致しなかったからです。エッセネ派自体が筆記した写本は少数しかなかったはずで、ここで発見された聖書の写本のほとんどは、実際は本来、神殿の図書館にあったものです。

皆さん、私が皆さんに理解してもらいたいのは、神殿が破壊される前は…神殿は、その地の中央銀行であっただけでなく、中央図書館でもありました。神殿には神の御言葉が保存されていただけでなく、非常に多くの家族の家系図が保存されていました。誰でも、自分がどの部族に属するのか、どうして分かるでしょう？神殿の記録がなかったならば。神殿が破壊される前にイエスが来て、働かれる事が、なぜ、そんなに重要だったのだと思いますか？イエスが、ユダ族の獅子である事に何の疑いも論争も起こらないためです。イエスは、神殿の記録が破壊される前に来られました。今日、私が自分がユダ族の出身であると知っているのは、父にそう言われたからです。でも、私には記録文書はありません。イエスにはありました。イエスがユダ族の出身であったのは、議論の余地がなく、信頼でき、正確で、信憑性のある事です。そして、これがそれらの写本の物語です。聖書全体が正確で、信頼でき、信憑性があるという話です。と言うのも、イエスが来られて、ここから5マイルほどの所を歩かれた時、彼はヨルダン川の水の中に入られました。ヨハネは、イエスを見ると言いました。「見よ。世の罪を取り除く神の子羊。」そしてイエスは来られて、イザヤ書9章、イザヤ書11章、イザヤ書53章、イザヤ書60-61章を成就されました。信じがたいかもしれませんが、イエスは、すでに記され、ここに保存されていた書を成就したのです。私たちが、ここで発見した写本、ムハンマドがここで見つけた写本は、2200年前に遡る写本です。言うことは、その写本は、イエスが来てそれを成就される前に書かれていたという事です。なぜなら、こう言う人達がいるからです。「イエスは来て、何かを成就したのではなく、彼は来て、何事かをし、聖書の書はすべて、その後で書かれたもので、まるで彼がそれを成就したかのように見せかけているだけだ」いいえ。1947年までは、そう考えることも出

来ました。でも、もう出来ません。そして、それがそれ以降にではなく、1947年に発見されたのは、極めて重要なことです。イスラエル国家が聖書の基盤、しかも異議を唱えられることの出来ない原文の写本に基づいて設立される為に必要でした。神はその地を整え、神はその民を整え、神はその御言葉を実現されました。それで、イスラエルの民がイスラエルの地に戻って来た時、2000年間死んでいた地が息を吹き返しました。そして世界中に散らばっていた人々が、その地に戻って来ました。エゼキエル書37章が示唆するように、ホロコーストの灰の中から主に連れられて。主は、彼らを彼らの墓場から連れて来られました。それと同時に、神はヘブライ語を復活させ、神はご自身の御言葉を墓場から持ち出されました。神は、それを、この辺りにある11か所の異なる洞窟の中で2000年間、保存されていました。それは、ものすごく興味を惹かれるものです。それは美しく、驚くべきことです。と言うのも、それらが見つかるまでは、最も古い旧約聖書のヘブライ語の写本は2つあって、1つは西暦930年のアレppo写本として知られるものです。基本的にそれは一冊の本で、ユダヤ人にとって最も聖なる4つの都市の1つ、ティベリアで書かれました。なぜなら、サンヘドリンが最終的にティベリアに置かれ、重要なユダヤ人ラビたちが皆、そこに住み、そこに埋葬までされています。そして、そのティベリアの西暦930年の写本が「アレppo写本」として知るものです。なぜかと言うと、その写本はユダヤ人コミュニティーを次々と移動し、シリアのアレppoにあるユダヤ人コミュニティーに行きつき、1947年を通して、そのコミュニティーが経験した暴動や迫害の中で、この写本は消えてしまいました。それは実際、奪われたのです。それをイスラエルのシークレットサービスが動いて取り戻し、やっとイスラエル国家に持ち帰りました。残念ながら、その経過で、何者かが何枚かのページを破り取ってしまいました。私が待っているのは、いつかある日、ebayで何枚かのページを見つけること、そして誰かが、「これは1100年前のものだ」と言うことです。もう1つの写本は、レニングラード写本です。レニングラード写本は、西暦1008年に、カイロで、そこに存在したユダヤ人コミュニティーに宛てて書かれたもので、どういうわけか共産主義時代のレニングラード、現在のサンクトペテルブルクにたどり着き、とても裕福な人のコレクションに加えられました。その人が、どうやってそれを手に入れたのか、全く分かっていません。裕福なロシア人に対して、疑問は持つてはいけません。と言うわけで、その人がそれを持っていて、展示されてますが、それは目を見張るものです。アレppo写本も、レニングラード写本もせいぜい1000年前程度のものです。2200年前の旧約聖書の写本が見つかった時の人々の興奮を、皆さんも理解できるでしょう。事実、エステル記を除く、聖書のすべての書がここで発見されています。なぜかは分かりません。エステル記には神の名が言及されていないからかも知れません。もしかしたら、当時、ペルシャから届き損ねたのかもしれない。しかし、1つ確かな事は、それが驚くべき発見だったという事です。それが驚くべき発見だったのは、彼らが、国宝のように冷蔵保管所に保管されたあのイザヤ書の巻物を持ち出した時、それがイスラエル国家の60周年記念に持ち出された時、彼らはそれをイスラエルが写本の幾つかを展示している聖書館にまで持って来ました。そこで私は自分の聖書を持って、その展示を見に行きました。皆さんにひとつ申し上げます。私はそのイザヤ書を読み、自分の持っていたイザヤ書を読み、また、そのイザヤ書を読んで、そして私は衝撃を受けました。それは全く同じだったんです。私は外に出ると、自分が衝撃を受けた事に衝撃を受けました。一体どうして私はこの事実によってショックを受ける必要があるのか？聖書は...主は、キリストは昨日も今日もいつまでも同じだ、と言われました。(ヘブル13:8参照)

「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」(イザヤ40:8)

実際にそれが本当だと、なぜ、私はそんなに衝撃を受けているんだ?!皆さん、理解してください。歴史の中で、多くの事柄は変化します。400年前、300年前までは、男性がかつらやストッキングを身に着けていたんです。地域によっては、今日でもそうです。つまり、全ての事が変化します。私自身の子もたちだって、カセットテープというのを知りません。彼らはDVDだって知らないことがあります。テクノロジーが、それほど急速に進歩しています。皆さんが理解しなければいけないのは、この世界では多くの事が変わり得ます。しかし、神の言葉は変わることができず、変わることはありません。神は、それが変わるのを許されません。それだけではありません。詩篇12篇6-7節を見てみましょう。詩篇12篇6-7節です。

「主のみことばは混じりけのないことば。土の炉で七回もためられて、純化された銀。あなたが、主よ、彼らをお守りになります。あなたは、この時代からとこしえまでも、彼らを保たれます。」(詩篇12:6-7)

神の御言葉が何世代にもわたって守られているのが分かります。それから、マルコの福音書13章31節で、

「この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」（マルコ13:31）

全ての事は変わり得ます。でも、神の言葉は変わりません。黙示録22章8-9節で、聖書は次のように言っています。

「これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。すると、彼は私に言った。『やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。』」（黙示録22:8-9）

「私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。」（黙示録22:18-19）

誰であれ、神の言葉に手を加える者には、非常に大きな裁きを加えられます。それが御言葉に付け加える事であれ、——そうする人が大勢いますが——その他の人たちがするように、御言葉から取り除くことであれ。最後は、もちろん、第2テモテ3章16-17節です。

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い動きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」（第2テモテ3:16-17）

それが意味するところは、御言葉が全世代にわたって守られるだけでなく、また、天地が滅びても、神の言葉は永遠に立つだけでなく、そして、そこに何かを付け足すことも、そこから取り除くことも出来ないだけでなく、御言葉には目的があるのです。それは教え、矯正し、あなたに道を示すためです。私たちを、この世から守ってくれるのは神の言葉です。だからこそ、私たちは理解しなければなりません。イエスご自身が世に来られた時に、彼は「ことば」、つまり「神のことば」として知られています。イエスは、永続される事によって…主は永遠には死んでおられません。永続される事によって、…主ご自身の死と復活によって、主によって、それはそこに永遠に、とこしえに存在されます。私たちにとって神の言葉があるのは、このためでもあります。神の言葉が存在するのには目的があるのです。そして、神はたくさんの変わり者を用いて、ほぼ2000年間、それをここに置いておられました。また、神は一人のペドウィンの羊飼いをを使って、それを発見させました。また、一人の頑固な考古学者を用いてそれを購入させ、政府にそれを国宝として宣言させて、そして、全世界に信じさせました。確かに、今日ではだれもが御言葉を所有し、御言葉を知り、御言葉を読み、御言葉に従い、御言葉を守ります。私は、私たちが大いなる背教の時代に生きてっていると信じています。神の御言葉は、私たちがしっかりと握っておくために、唯一、神が私たちに残されたものです。そして、私たちがしがみつくと出来るように残されているのは神の御言葉だけなので、サタンは、神の御言葉の信頼性を損なおうとします。サタンは羊の衣を着た狼のように内部から来て、私たちに「これは重要ではない。あれは重要ではない。あれは教えるな。それは言うな」と言おうとするのです。それは、唯一重要な事から私たちを遠ざけるためです。唯一、信頼できるものから。唯一、本物であるものから。唯一、正確なものから。唯一、理に適うもの、唯一、あなたを変えることができ、あなたをこの世から守ることの出来るものから。ですから、この終わりの時に私たちに課せられた責任は、御言葉を維持するだけでなく、守る事、それも私たちの先人たちのためだけでなく、今後の人たちのために、なおさらに未来の人たちのため、私たち自身の子どものために守る事だと思えます。私は皆さんを次の言葉で励ましたいです。天地は滅び去ります。でも、この言葉は滅ぶことはありません。

「ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。」(詩篇20:7)

しかし、私たちは主の御名に信頼し、主の言葉に信頼します。この言葉と、そこに含まれている全ての事は、ヨシュア記から引用させてもらえば...第1章...ヨシュアに語られた言葉を使って締めくくりたいと思います。彼はイスラエルの民を率いてイスラエルの地に入ろうとするところでした。彼は6節でこう言います。



「強くあれ。雄々しくあれ。わたしが、彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべ、モーセがあなたに命じたすべての律法を守り行え。これを離れて右にも左にもそれではならない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」(ヨシュア1:6-9)

アーメン。

神の祝福を！



☞ スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.05.17 (Mon)